

□ 版画の巨匠 一原有徳（いちはら ありのり）

一原有徳氏は、明治43年（1910年）、徳島県に生まれ、大正2年（1913年）3歳の時、家族とともに真狩村字富里に引っ越してきました。その頃の富里地区は、大半が樹木の生い茂る原生林でしたので、その大自然の中でたくましく遊び、そして熱心に学びました。

一原さんが13歳を迎えた大正12年（1923年）、小樽市へ転出されましたが、小樽地方貯金局へ勤めていた一原さんは、その後40歳を過ぎて油絵を始め、版画を手掛けるようになったのは、45歳になってからのことでした。

一原氏の版画への熱意は、その技法と表現力にあり、全道展、国画展など各種版画展覧会には入選作品・大賞作品を次々に出品し、日本を代表する版画家として有名です。その後、海外においても一原氏の活躍はめざましく、多くの賞と高い評価を受けました。

また、羊蹄山のふもとで育った一原氏は、登山家としても知られ、後輩たちへの登山指導のかたわら、山や冬の自然の厳しさを俳句におさめ、その句集を発表するなど、多彩な才能とそのすぐれた洞察力は、世界中の人々から注目されたほどでした。

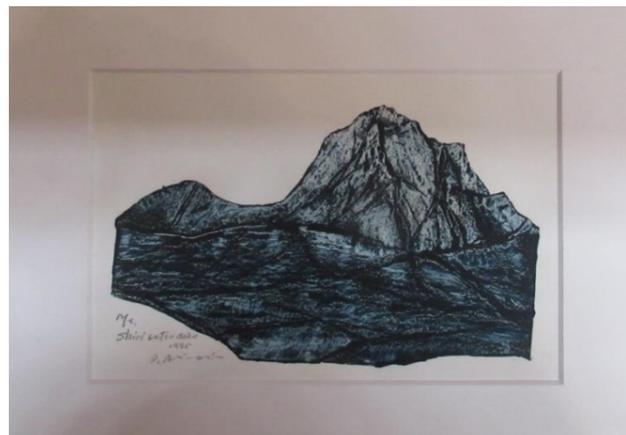
少年の頃、真狩村で過ごした一原氏は、その作品の一部を真狩村に寄贈され、羊蹄ふるさと館には、正版画や句集などその数点が展示されています。

平成6年に行われた真狩村開基100年記念モニュメント（真狩川河川公園に設置）は、一原有徳氏の制作によるものです。

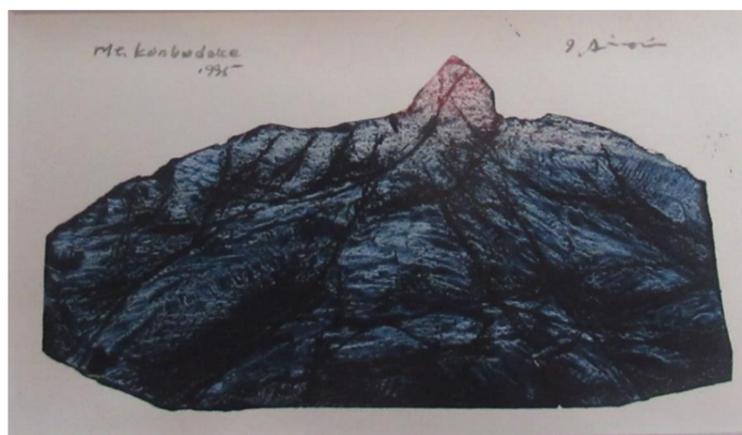
羊蹄ふるさと館展示作品



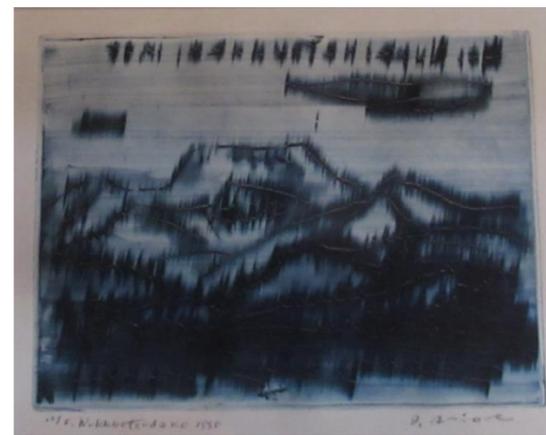
ニセコアンヌプリ



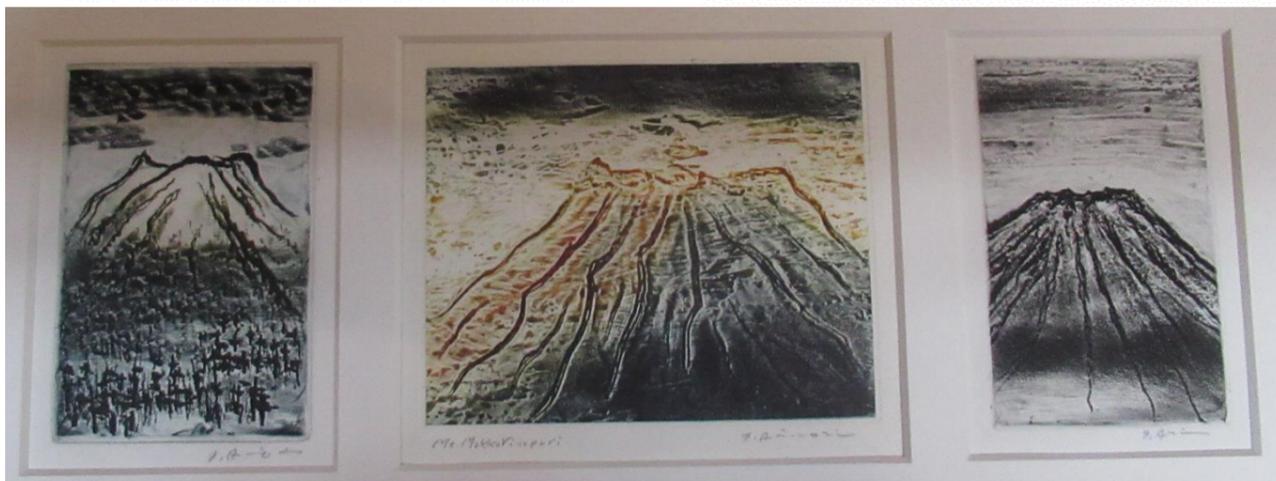
尻別岳



昆布岳



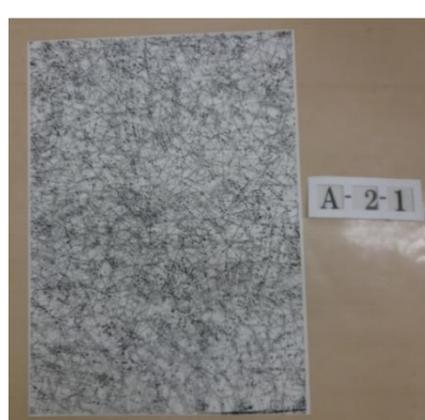
貫気別岳



マッカリヌプリ (羊蹄山)



真狩岳 (羊蹄山)



その他 数点

真狩村開基100年モニュメント『翔(しょう)』

翔

羊蹄山

真狩川河川公園

